

小学校中学年 埼玉県放送教育会の理論を板書の思考ツール化で活用した実践 ～板書の思考ツール化による学習効果の検証～

川越市立霞ヶ関東小学校 教務主任 武井 佑樹

【実践報告の概要】

埼玉県放送教育研究会では、学校放送番組の視聴体験を通して「意味場」「空発問」の理論から、放送教育での授業実践を進めている。
(本研究会より出版された書籍→)

今年度は実践するたびに課題となる「板書」に焦点をあて、本来は児童が使う「思考ツール」を板書に取り入れた。「板書の思考ツール化」をすることで、「空発問」により発言された児童の思考が可視化され、かつ板書から思考を広げ、考えを深めることができるであろう。」と仮説を立て、学習効果との関係性を検証するため授業実践を行なった。

「わかる」を科学する



【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組…道徳「もやも屋」

- 2019年10月より新番組として放送開始。
- 「時々迷々」の系譜を受け継ぐ、10分のオムニバス・ドラマ形式の道徳番組。
- 番組にストーリーがある。
- タイトルや1シーンなど細かいところにこだわって作られており、考えるためのヒントとなっている。
- オープンエンドになっており、「考え、議論する道徳」の話し合いに繋げやすい。

【本実践における工夫点】

○「意味場」「空発問」の理論

- ・「意味場」とは、番組視聴後の児童一人ひとりのその子らしいとらえ方・考え方を示す。
- ・「空発問」とは、意味場をアウトプットするための教師の構えであり、指導技術を示す。

○「板書の思考ツール化」の活用

- ・番組が持つ力を最大限に発揮するために、「考えてほしい内容項目」や「関連する内容項目」などを本来は児童が思考する際に使用するツールを板書に活用し、整理して可視化した。

【取組の具体】

○授業の仕方

【事前】

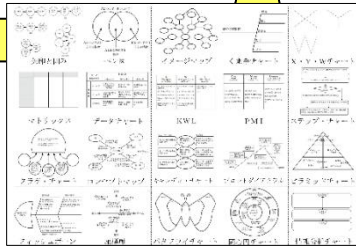
- 教材をしっかりと読み込み、思考ツールを選択する。
(アジャストしなかったときのことを考え複数考えるとよい)

【授業】

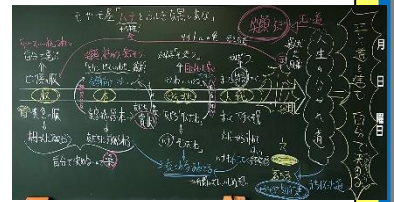
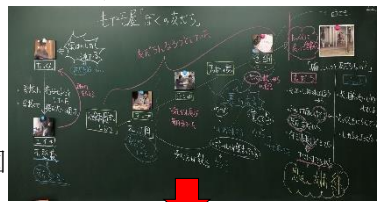
- ①番組を児童とともに視聴する。教師は児童の視聴しているときの感情の揺れ動きの様子を観察する。
(児童の頭の中には「意味場」が形成されている。)
- ②視聴後に「意味場」をアウトプットするために意図的に無意図の発問「空発問」をし、話し合う。
- ③児童の発言を板書に位置づける。関連があるところなどは色分けをしたり、矢印でつないだりする。
- ④授業終了間際に、Google Formsで「考えたこと」や「板書を見て感じたこと」など振り返り活動を行なう。

【事後】

- 教師は板書や児童のGoogle Formsから授業について振り返る。



【右】あの子の絵の具×Yチャート
【左下】ぼくの友だち×プロップダイアグラム
【右下】ハナとふしぎな黒い穴×対比型



発言	内容を振り返る	内容を振り返る
1	文様、信條	エイトボールが学校に来ておぼろげに、本日はおぼろげな学校、無事から、この理由で動ける。知らない人も声をかける。これは学校の用意でもあるから。
2	感謝	一緒に遊んでくれたり、毎日来てくれるから。ついでにやらせてくれるから。
3	感謝	エイトは最初から学校に来ておぼろげから。
4	文様、信條	自分から動いておぼろげから、動かないで待つ。誰か。
5	文様、信條	友達と遊んでおぼろげから動ける。
6	文様、信條	動かないで待つから。
7	文様、信條	動かないで待つから。
8	文様、信條	動かないで待つから。
9	文様、信條	動かないで待つから。
10	感謝	動かないで待つから。
11	文様、信條	動かないで待つから。
12	重要・勇気・怒り・強い意志	動かないで待つから。
13	文様、信條	動かないで待つから。
14	文様、信條	動かないで待つから。

青…考えさせたい内容項目 黄…関連する内容項目 赤…その他

【本実践の成果と課題】

- 番組を大型TVで一斉視聴したことで、教科書を使用したときに要する読解力を用いず、同じスタートラインに立って話し合いを始められた。
- 「板書の思考ツール化」をすることにより板書を整理し可視化したことで、「考えてほしい内容項目」や「関連する内容項目」に時間をかけて話し合うことができ、振り返り活動の結果から番組のもつ力を最大限に活用できた。
- しっかりと教材研究を行ない、教材にあった思考ツールを選択し、児童の思考そのものが板書に位置付くよう配慮する必要がある。
- 個人的な感覚だが6:4、7:3くらいで教師主導になっているので、もっと児童に委ねられればと思う。